

平成21年度

決算のあらまし

本年度も健全な財政運営に努めました

平成21年度一般会計をはじめとする各会計の歳入歳出決算が9月の定例議会で認定されました。

一般会計では歳入が28億3,916万円、歳出が25億3,504万円で歳入決算額から歳出決算額を差引いた形式収支は3億412万円の黒字となりました。また、形式収支から翌年度へ繰り越すべき財源を控除した収支の均衡を表す実質収支は1億563万円の黒字決算となっています。

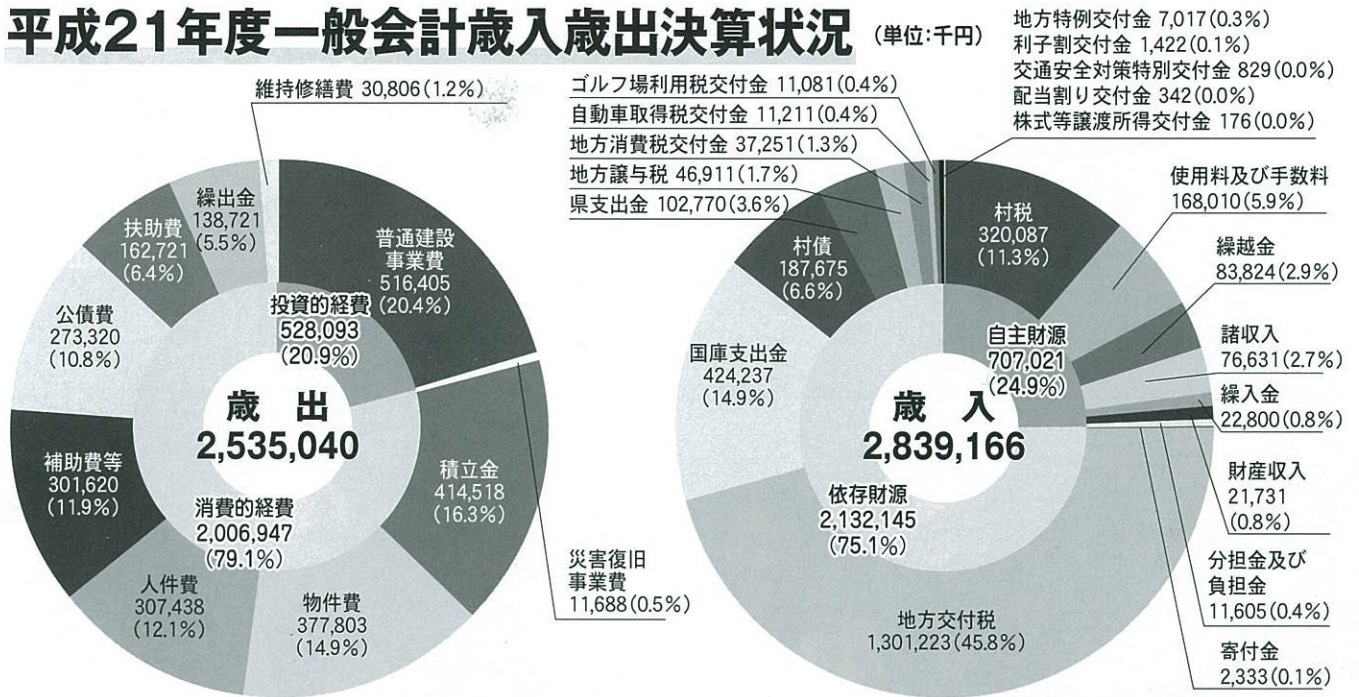
※1

また、財政の健全度を示す指標として平成17年度より導入された「実質公債費比率」は、昨年より3.7%下がり、▲0.2%と平成21年度はマイナスとなり県下1位、全国でも4位(1,750市区町村)とトップレベルの健全度となりました。

※1 自治体の財政健全具合を示す指標で、公営企業会計も含む、一般財源に占める借入れ返済額の割合を示すもので、数値が高くなほど財政を圧迫しています。

平成21年度一般会計歳入歳出決算状況

(単位:千円)



主な村づくり事業

【太陽光発電システム導入事業】

本年度、総事業費9,948万円、役場庁舎19kwh・小学校19kwh・中学校19kwh・集合住宅5kwh(共用部分用)10棟へ太陽光発電システムを設置しました。本事業には、国の太陽光補助金4,440万円と交付金5,488万円が活用されました。















【小学校トイレ等改修事業】

総事業費4,188万円、小学校校舎のトイレ改修を行いました。本事業には生活対策臨時交付金を活用しました。



村民ひとり当りの納税額	村民税	固定資産税	軽自動車税	たばこ税
76,558円(法人除く)	30,169円	19,100円	2,844円	3,951円

議会費 6,642円 (1.1%) 	村民1人 当りに使われたお金 人口4,181人 (H21.4.1現在) 総額 606,325円 (目的別歳出) 	土木費 34,564円 (5.7%) 道路整備など住みよい村のために 
総務費 214,389円 (35.4%) CATV運営費、集会施設整備、防災行政無線整備など 	農林水産業費 21,409円 (3.5%) 農林業の振興と活性化に 	消防費 21,874円 (3.6%) 防災活動や災害予防に 
民生費 110,965円 (18.3%) 福祉や将来の暮らしのために 	商工費 31,889円 (5.2%) 観光・商工業の振興と活性化に 	教育費 67,256円 (11.1%) 学校施設整備、教育のために 
衛生費 29,169円 (4.8%) ゴミ処理や予防衛生に 	災害復旧費 2,796円 (0.5%) 道路、河川、水路、農地の復旧に 	公債費 65,372円 (10.8%) 

財政指標等の推移

年度	財政力指数	実質公債費比率	経常収支比率
18	0.227	6.0	76.0
19	0.230	5.3	72.1
20	0.234	3.5	68.9
21	0.231	▲0.2	64.9

特別会計の収支決算

会計区分	歳入 (対前年比)	歳出 (対前年比)
国民健康保険	3億4,485万円 (0.3%の減)	3億2,114万円 (1.1%の増)
老人保健	257万円 (94.4%の減)	257万円 (94.4%の減)
後期高齢	3,437万円 (2.3%の減)	3,432万円 (2.3%の減)
介護保険	3億3,006万円 (1.2%の増)	3億3,002万円 (2.1%の増)
村営水道	1億2,150万円 (5.3%の増)	1億464万円 (6.8%の減)
計	8億3,335万円	7億9,269万円

平成21年度決算における財政健全化比率について

平成19年度から、公表が義務づけられました「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)」により本村の財政健全化比率を公表します。

下條村の平成21年度決算に基づく「健全化判断比率」「資金不足比率」は、以下のとおりとなりました。

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	資金不足比率
平成21年度決算健全化判断比率	-	-	▲0.2	-	-

※実質赤字、連結実質赤字は赤字でないため「-」で表示しています
 ※将来負担比率は、借入金や将来負担する実質的な負債がないため「-」で表示しています
 ※資金不足比率は、公営企業(水道特別会計など)の資金の不足度を示すもので黒字のため「-」で表示しています

用語チェック

- 実質赤字比率 総務や民生などを行う村の一般会計等の赤字の程度を、村税等の財源の規模と比較して指標化したもので、財政運営の深刻度を示しています。
- 連結実質赤字比率 すべての会計の赤字と黒字を合算し、村全体としての赤字の程度を、村税等の財源の規模と比較して指標化したもので、村全体としての運営の深刻度を示しています。
- 実質公債費比率 借入金の返済額などの大きさを指標化したもので、資金繰りの危険度を示しています。
- 将来負担比率 村の借入金や将来支払いが見込まれる負債等の現時点での残高の程度を指標化したもので、将来の財政の圧迫度を示しています。
- 資金不足比率 村の公営企業にかかると特別会計(水道事業会計など)の資金不足額が事業規模に対してどのくらいの割合となっているかを示しています。

【資材支給事業】
 本年度も村内61箇所で実施され、支給された資材費等の総額は688万円にのぼり、うち200万円は資材の購入費として元気づくり支援金(県費)が充当されました。

